

上分中学校 第3学年美術科学習指導案

平成26年6月18日水曜日 第4校時

中学3年 生徒数 9名

場所 美術室

指導者

1 題材名「イラストレーション」～15歳の今を切り取るう～

2 題材観・キャリア観（キャリア教育の視点に関わる部分にアンダーライン）

（1）題材観

本題材では、生徒がこれまで育ってきた故郷や小さいころからの思い出をもとに、カラーインクを中心とした画材を複合的に活用して表現する活動を行う。本題材のねらいは主に中学校指導要領美術第2学年及び第3学年「A表現」の「（1）ア対象を深く見つめ感じ取ったことを、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと」、「（3）ア材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること」、及び「[共通事項]ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」に係る力の育成である。

本校では総合学習や学校行事において、小学生の頃から地域との交流や体験活動を行っている。そこで得た情報や経験に、自分自身の思い出を加えたものの中から、主題に迫らせた。

またこれまでに学習してきた絵画やデザインで学んだ様々な技法と、鑑賞活動で培った感性を活用して、イメージを組み合わせながら豊かに発想できる課題であると考える。

（2）生徒観

本学年は美術に意欲的に取り組める生徒と、苦手意識が強く、自信を持って制作に取り組み事ができない生徒に分かれている。しかしこれまでに、デザイン、絵画等の平面作品に加え、デジタル機器を活用した複合的な題材に取り組むなかで、それぞれの得意分野や自分なりの表現方法を模索しつつある。本年度の平面構成の課題では、昨年度までに比べて向上心を持って意欲的に制作に取り組む姿が増えており、画面構成や色の塗り方などに変化が表れてきた。

題材ごとの授業評価の結果からは、新しい題材、画材に対する興味・関心が高く、次の課題への意欲は見られるが、見通しを持って計画的に制作したり、期限を守って仕上げるのが苦手である。また、基本的な技法や配色などであっても自分で判断できず、一つひとつを指導者に訪ねたり、確認したりしないと制作を進められない生徒も複数いる。

本学年はこれまでに、水彩絵の具、ポスターカラー、アクリルガッシュ、ゲルインクボールペン、パステル、色鉛筆などの画材を使った制作を経験している。

（3）指導観

カラーインクや木軸ペンの使用は本題材が初めてとなるが、昨年度上級学年が使用していた際に間接的に触れており、特性や効果についての技能を比較的スムーズに習得できると考えられる。これまで使用してきた画材の特性を復習し、習得してきた基礎・基本を複合的に活用した表現につなげられるように指導したい。特に基礎的な技法に関しては、実際に画材を使用した練習を行い、制作への不安を取り除くように留意する。

また主題を生み出す場面では、生徒にこれまでの経験をもとに発想するよう指導していくとともに、発想の手助けになるような資料もそろえる。加えて学校図書館を活用し、自分が魅力を感じるのとはどのような表現なのかということに気付かせ、生徒が互いの思いを伝え合う言語活動の場面を設定し、本課題の表現につなげる。

制作の際には、一つひとつの作業に不安を感じて指導者に訪ねる回数が増えると予想されるが、直接回答するだけでなく、生徒の自主的な思考判断を促すことを意識した指導を行う。

本題材を通して、文字や言葉だけでなく、イラストレーションもまた、相手によりわかりやすく伝えるための手段として効果的であることに気付かせるとともに、自分のこれまでを振り返り、自己を見つめるきっかけとなるように導きたい。

3 単元の指導目標

○ 教科の指導目標

- ・故郷の良さやアピールできる良さを主題とし、自分の意見を述べ、構想を練ろうとしたり、表現方法を工夫して表現しようとしたりする。
【関心・意欲・態度】
- ・「思い出」を表現するためのモチーフを見出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫する。
【発想や構想の能力】
- ・表現したい形やイメージをもち、自分の意図に合う新たな表現方法を工夫して、創造的に表現する。
【創造的な技能】
- ・制作者の意図や創造的な表現の工夫などを感じ取りながら作品を味わう。
【鑑賞の能力】

○ キャリア教育視点での目標

- ・様々な資料から、自らの興味や関心がどのような表現にあるのかを探り、自己をみつめる。
【自己理解・自己管理】
- ・複数の画材や技法の中から、自分の表現にあったものを選択し、見通しをもって計画的に制作する。
【課題対応～実行力】

4 単元の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
主題を基に、自らの意見を述べ、構想を練ったり画材や用具をいかしたりしようとしている。	主題を基に、全体と部分などの関係などを考え、形や色彩の効果を生かして創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	画材や用具の特性を生かし、表現のイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	形や色彩などの特徴や印象などから、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

5 指導と評価の計画（全6時間）

時数	○指導のねらい(目標) ・学習内容、学習活動	評 価					評価規準	評価方法
		関	発	技	鑑			
1	○学校図書館の蔵書の表紙・カバーから、自分の心に響く構成や配色を見つけ、分析して発表しよう。	○	◎				◎作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の言葉で表現する。 ○自らの意見を述べ、構想を練る。	・ワークシート ・発言 ・行動観察
2	○主題を表現するための構想を練り、表現方法を工夫する ・制作手順と技法の確認 ・主題を基にした構想 ・アイデアスケッチ	○	◎				◎全体と部分、形や色彩の効果を生かした構成を工夫する。 ○自らの意見を述べ、構想を練る。	・ワークシート ・発言 ・行動観察
3 本時	○アイデアスケッチを完成させる ・技法の練習と習得 ・意見交換 ・本番制作		○	◎			◎カラーインクの特性を生かし、自分の表現意図に合う技法を工夫する。 ○主題を表現するために単純化や省略、強調など構成を工夫する	・ワークシート ・発言 ・作品 ・行動観察
4 ・ 5	○作品を制作する ・本番作品に取り掛かる		○	◎			◎自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫して創造的に表現する。 ○形や色彩の効果を生かして創造的な構成を工夫する。	・作品 ・行動観察

6	○作品を相互鑑賞する ・互いの作品を鑑賞し合い、感じ取ったことについて交流する。	○	◎	◎作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の言葉で表現する。 ○主題を基に、自らの意見を述べる。	・ワークシート ・発言 ・行動観察
---	---	---	---	---	-------------------------

6 本時の指導 (3/6)

(1) 目標・評価規準・評価方法

本時の目標	○ 教科の指導目標 ・主題を表現するために、モチーフの単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫しながらアイデアスケッチを深める。 【発想や構想の能力】 ・画材の特徴を生かし、自分の意図に合う新たな表現方法を工夫して、創造的に表現する。 【創造的な技能】 ○ キャリア教育視点での目標 ・複数の画材や技法の中から、自分の表現にあったものを選択し、見通しをもって計画的に制作する。 【課題対応～実行力】
本時の評価規準	・主題を基に、全体と部分などの関係などを考え、形や色彩の効果を生かして創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 【発想や構想の能力】 ・画材や用具の特性を生かし、表現のイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 【創造的な技能】
評価方法	ワークシート・発言・作品・行動観察
準備物	ワークシート、カラーインク、パステル、カッターナイフ、ペン軸、ペン先水彩紙、練習用はがき、スポイト、ウェットティッシュ、参考資料

(2) 板書計画

3 イラストレーション～15歳の今を切り取ろう～

本時の目標
使用する技法を確認し、
アイデアスケッチを完成させる。

1. 確認

技法例 ①	技法例 ②
技法例 ③	技法例 ④

2. ミッション

作品集の表紙を飾る
「白い雲」を描こう

3. アイデアスケッチ

○技法を効果的に組み合わせる。
○完成のイメージをもつ。
○自分で判断して制作する。

4. 試作・本番

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点 ○・・・教科の留意事項 ☆・・・キャリア教育視点での留意事項	評価規準・評価方法
導入 〔5分〕	1 本時の目標・内容を知る。 ・形や色によってイメージをより強く表現できることを学習する。 ・実物の色にこだわらず、イメージを伝えるために工夫できることを学習する。	①本時の目標を確認する。 ○形や色を工夫して、イメージをより効果的に表現することを伝える。 ○ 参考資料を提示し、色の効果や構図などについて簡単に解説する。	
展開 〔40分〕	2 基本の技法について確認 ・ペンとカラーインクの使い方 ・パステルの使い方	③カラーインクやパステルの特性をいかした技法の基礎を確認しながら伝える。	
	作品集の表紙を飾る『白い雲』を描こう。		
	3 真っ白な雲を描く。 ・個人でイメージを膨らませる。 （制限時間3分） ・班で意見を伝えあい、『白い雲』を効果的に表現する方法を考え、制作する。 （制限時間10分） ・描いた作品についてプレゼンテーションしあう。	③イラストレーション作品集の表紙を飾る一枚にするという設定を伝える。 自分の中にある『白い雲』のイメージを効果的に表現できる方法はないか、構図・色・形・技法などに着目させる。 ☆表紙に採用してもらうことを意識して制作する。 ○班員全員が制作にかかわっているか確認する。 ☆互いのアイデアを聴き合いながら、制作する。 ☆相手意識をもって発表したり、聞いたりする。	・画材や用具の特性を生かし、表現のイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 〔試作作品〕
4 班制作や発表で出た意見を参考にしながらアイデアスケッチの改善に取り組む。 5 試作・本番制作に取り組む ※必要に応じて資料を参考にしながら作品の改善を行う。	④ワークシートに書き出すことによって自分たちの考えをまとめる。 ⑤学んだ技法を活用して試作を行い、制作手順や画材の効果を探る。 ○イメージを効果的に表す手立てがわからずに困惑している生徒には、参考作品資料を活用させたり、例をあげながら支援する。	・主題を基に、全体と部分などの関係などを考え、形や色彩の効果を生かして創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 〔発言・ワークシート〕	
まとめ 〔5分〕	6 本時の学習内容を確認する 7 次時への見通しを持つ。	⑥本時の学習内容を確認する。 ○作品集の表紙を飾る『白い雲』の選出作品発表について予告する。 ⑦次時の予告をする。 ○アイデアスケッチを完成させておく。(宿題) ○水彩用紙への本番制作を行う。	